@ichio_x

@ichio_x

「姉ちゃん、こんなところで一人で来るなんて危ないなぁ」
周りに迷惑かけない様に人気の無いところで魔法の特訓をしてたユイ。
休憩中に気を抜いていたせいで二人組の山賊に捕らえられてしまう。
「は 離してください…」
「わたし、魔法の練習をしていただけでお邪魔でしたら別の場所に行きますから…」
「あぁ？ まぁあちょっと煩かったけど姉ちゃんみたいのなら大歓迎だぜ。へへへ…」
男達はニヤニヤと下品な笑みを浮かべながらユイの全身を舐めまわすように視線を這わせる。

@ichio_x

「おい！　聞いてるんだから答えろよ！」
イライラした男は無造作にユイの胸を掴む。
「嫌ぁぁッ！！」
「ちっ　うるせぇな」
「ちょっと胸触られたぐらいでデカイ声出すなよ」
「やだ…なんで…嫌…いやぁ…ッ」
@ichio_x

「ッ!?」
男はズボンをずり下げ勃起したペニスをユイの目の前に晒す。
「いや～揉み心地良過ぎて興奮して
こんなんなっちまったぜ」
「ちょっとこの胸使わせてくれよな？」
「な 何を…？」
「何ってお前…」
@ichio_x

「こんな乳してるクセに今まで誰にも使わせてなかったのかよ？」

「宝の持ち腐れってやつだな」

（やぁ…騎士クン…マコトちゃん…助けてぇ…）

「あったかくて柔らかくて気持ちいいじゃねぇか」

「若いから張りが有って最高の乳だな」

男は両方の胸をグリグリとペニスに擦り付けて感触を楽しむ。

@ichio_x

@ichio_x

@ichio_x

@ichio_x

「ひぁッ！？」
細身の男は見た目より腕力が有るらしく
軽々とユイを抱え上げる。
「や やだ！ 降して！」
「おほ～ 丸見えだねぇ～」
「見た目通りの可愛いパンツ穿いてんのな」
「見ないで！ やだ…嫌ぁ！」
「いやいやじっくり見させてもらうぜ…ん？
なんか濡れてねぇか？」
ユイの下着の染みに気付いた男がそれを指摘する。
「な…！？ ち ちが！ やだ…なん…で…？」
@ichio_x

男はニヤニヤと笑いながら
亀頭を下着越しの性器に押し付ける。
「や やめて！ それは…それだけは…！」
「だから何をだよ？ ん～？」
ぬち…ぬちゅ…
男は下着の湿った部分に亀頭の先端を擦り付け
意地の悪い質問を続ける。
「ひ…んッ…止めて…擦り付けないでぇ…！」
「ん～？ なんかエロい声出てねぇか？」
「ち 違う！ そんな…んく…んんッ！？」
@ichio_x

ずぶ ずぶ ずぬ ずぶ
「ひぎぃぃぃッ！ 止めて！ 動かないで…！
本当に痛いの…お願いッ！！」
「なぁに そのうち痛みも薄れてくるから
もうちょっと我慢してろや」
ずぷ ずぷ ずぬ ずぬ
「ああ…ッ！ …嫌ぁ！ …騎士ク…ンッ…たすけ…ッ！」
「キシクン？ 誰だよそれ？ 彼氏か？」
「わりいな 彼氏より先にチンポぶち込んじまってよ」
「でも、お前みたいな上玉に手を出さなかったヘタレじゃなぁ…」
@ichio_x

「ッ！？」
「分かんねぇわけねぇよな？」
「男が出すって言えば何のことだか！」
「やだ！！ やめてッ！ それだけは！！」
「野暮な事言うなよ」
「セックスの締めは中出しだろ？」
「一番奥の子供作る場所に押し付けて全部収まるように
ドピュッと出すのが作法ってもんだろ？」
「嫌ぁッ！！ いやいやッ！ やめてぇッ！！」
「ひっひっひ そんな嫌かよ？ 種付けがよ？」
「やだぁッ！ やめて！ やめてくださいッ！！」
「はぁ はぁ そんな嫌か？」
「お願いします！ やめて…ヤメテぇッ！！」
「うぅ…ッ そうかっ…嫌か…ぐ…ッ」
@ichio_x

@ichio_x

細身の男はユイに尻をこちらに向けるように指示する。
（私…また犯されるんだ…）
体力も魔力も残ってないユイには対抗手段がなく
男たちが満足するまで耐えるしかなかった。
男はユイの尻を両手で鷲掴みに固定して、亀頭の先端を秘所に向ける。
@ichio_x

にゅぶっ！ にゅちゅっ！ ぐちゅんっ！ ぶちゅんっ！
「ひぁッ！？ やらっ！ ああぁッ！ ああんッ！♥」
無駄だった。
既に膣を２回犯され絶頂し、性の喜びを覚えてしまったユイの体は
快楽を拒絶することが出来ない。
（嫌なのに…嫌なのにぃッ！）
男はユイの反応に満足して嬉々として腰を振る。
@ichio_x

ユイには見たことないものだった。
大きさの異なる玉が数珠つなぎで連なっているソレは
ユイにも直感的に嫌なモノに違いないとわかる。
（何…コレ…？）
俗に言うアナルビーズだ。
男はニタニタと笑いながら、引き攣るユイにソレを見せつける。
「や やめて…やめてください…」
男は期待通りのユイの反応に満足すると、ソレをユイのアナルに押し付けた。
@ichio_x

男の息が荒くなり、ユイにも男の絶頂が近いことがわかる。

（また…膣内に出されちゃうの…？）
（本当に…赤ちゃん…出来ちゃうっ…嫌…嫌ぁ…ッ！）

ユイは最後の力を振り絞り抵抗しようとするが
２度の絶頂でかなりの体力を消耗しているせいで思うように体が動かない。

このままではまた膣内射精される。
更に妊娠する確率が高まってしまう。
一番恐れている最悪の事態になる。

しかし、分かっていても無理だった。

@ichio_x

@ichio_x

@ichio_x

「あ…うぅ…」
ユイが初めて見た勃起した男性器。
ユイの処女を奪い今まで何度も獣の様な交尾して種付けされた陰茎。
ユイが何度も絶頂させられ、それを拒むことのできなかったペニス。
最大時まで膨らんだソレを見て、ユイはトラウマがよみがえる。
（私…これに犯されたんだ…）
（こんなに大きいモノが私の体を貫いて…）
（何度も何度も…嫌なのに…中に出されて…）
@ichio_x

ずりゅ ずりゅ ずりゅ ずりゅ
れろ ぺろ ぴちゃ れろろ ぴちゃ
胸を上下に動かして竿を扱きながら亀頭を舐めまわす。
男はこの責め方でイき易いことをユイは覚えている。
「おっ…おおっ… おぅふッ!」
(早く…早く射精して…ッ)
射精するまで開放してもらえない。
射精させれば犯されずに済む。
だからユイは手を抜かず念入りに手厚い奉仕をする。
@ichio_x

びゅ……びゅる…
「ぢゅるるッ…ごく ぢゅうううう～ッ！」
「ごくり… ぢゅずずず～～ッ！ ごくッ」
射精が落ち着いた後も、念入りに亀頭の先端に吸い付いて
尿道の奥に残ってる精液も全て吸い出して飲み干していく。
「ぢゅうううううッ！！！」
「も もう出ねぇよッ！ 口を離せって！！」
「ま まだ…残ってるから…」
@ichio_x

れろ…ぴちゃ…れろぉ…
「はぁ はぁ まだ…出ますよね…？」
「……」
男は十回程射精した後に気を失っていた。
それでもユイはずっと口淫を続けてペニスから
精液を吸い出している。
@ichio_x

@ichio_x

射精が近いときは、より強い刺激を一気に与えて、大量に射精させる。
溜まっている精液を全て射精させれば男達は満足して開放する。
ユイにとっても男達にとっても最良の方法。
@ichio_x
「うっ…ううッ…！ ひうぅッ！」
（早く…早く射精して…！）

@ichio_x
「……」
男は無言でユイに何かを訴える。
「は はい…」
まだ続けろ、そういう意味らしい。
（次も中に出されたら…耐えられない）
（イくのは嫌…もう嫌…！）
じっとしてても終わらない。
終らなければ解放されない。
だからユイは再び男の上で下品に
腰を振らなくてはならなかった。

ぐぽっ ぐぷぷ…ぐりゅん ぐにゅ…にゅるる じゅぷんっ
@ichio_x
とても１０代のモノとは思えない腰使いで、男の下半身を責め立てるユイ。
「ああっ♥ 凄い…♥ 膣内でびくびくって…♥♥」
「私もあなたのおちんちんで凄い気持ち良くなってるの…♥♥」
「一緒に気持ち良くなれるって…セックスって素敵だね♥♥」
目を閉じてうっとりとした表情のユイは、まるでセックスを楽しんでいる様に見える。

ジュボッ！ ジュブッ！ ブボッ！ ジュブンッ！

「はっ！ はっ！ はへっ！ はひッ！」

まるで動物の様に舌を出して息を荒げながら腰を振るユイ。

ただ純粋に快楽を貪る獣の様な交尾。

タガが外れてしまったかの様な、その姿に以前の彼女の面影は無かった。

@ichio_x

@ichio_x

ズプッ！ ジュプッ！ ジュプッ！ ジュプンッ！
「あッ♥ あひッ♥ あんッ♥ はへッ♥」
「す すごぉっ♥♥ それっ…いいッ♥
良いよッ♥ 騎士クンッ♥♥♥」
「上手だよっ♥ あっ♥ あっ♥
おくっ♥ 当たってっ♥
き きもちっ♥ 気持ち良いのっ♥♥♥」
女は演技ではなく本当に気持ち良さそうに緩みきった表情で
男のセックスを褒め称える。
それに気を良くした男は叩きつける様にさらに腰を打ち付ける。
@ichio_x

ヌプ…ヌポッ　ズプンッ！…ヌブプ
「やぁだぁ…もっとぉ…
もっとたくさんしてぇ…♥」
「ぐぅ…クソッ！　クソッ！」
「町で初めて見かけたときから…うぅ…ッ
ずっと…ずっと好きだったのに…！
こんなビッチだったなんて！！」
先程まで童貞だった若い男がヘコヘコと
情けない腰付きでユイの相手をしている。
どうやらこの客はユイが山賊に捕まる前から
彼女に恋心を抱いていたらしく
しばらく姿が見えなくなっていた彼女を探して
この場所に行きついたらしい。
@ichio_x

「あはぁ♥　騎士クン♥　また来てくれたんだぁ♥♥♥」
中年の男がユイの前に座ると
ユイは嬉しそうに彼を見上げる。
「うんうん　騎士クンでちゅよ～　またワシと遊ぶか？」
「うんっ！♥　しよ？♥　騎士クン♥♥♥」
「ま　待てよっ！　まだ終わりじゃないっ！
アンタは引っ込んでてくれっ！」
「なんじゃ冷たいのう…
なぁに、お前さんの邪魔はせんよ」
「だがこの子は物足りない様だしな…
ちょっと仲間に入れてくれんか？」
「は？　何を…」
@ichio_x

「んふ♥ ちゅぱっ♥ ぢゅるるっ♥
おひんひん…おいひ♥♥」
「せいひ…おくひにらして?♥ ね?♥♥」
しかしユイは中年男のペニスに夢中になっていて
若い男の事は既に眼中に無いようだ。
「本当に美味そうにしゃぶっておるのう」
「チンポを咥えて喜ぶ女なんて
男を喜ばせる為の演技だと思っておったが
この娘は心の底から嬉しそうにしゃぶっておる」
「こんなドスケベな女は今まで見たこと…
ああ、いや…あの女は特殊なケースだったか」
中年の男が別の誰かを思い出している間も
ユイはうっとりした顔でペニスをしゃぶり続けていた。
@ichio_x